

# アカエゾマツを活用した 交通安全割符の開発と地域資源利用の実践

明治大学 月岡忠 別府豪 永瀬颯人 猪俣智哉 都留文科大学 本多真理

## 研究の背景・目的

北海道に広く自生するアカエゾマツは、アイヌ文化で「女神の木」として大切にされてきました。しかし、細くて割れやすい性質のため建築材としての利用が難しく、梱包材など限られた用途にとどまり、価値が十分に生かされません。そこで本研究では、この「割れやすさ」に着目し、欠点を価値に変える方法を探りました。浦幌神社、土井木材株式会社、一般社団法人 Pine Graceと連携し、「割符」として活用することで、地域資源としての新しい役割をつくることを目的にしました。

割符（わりふ）とは、木の板を自分の手で二つに割り、片方に厄を書いて神社で納め、もう片方をお守りとして身につけることで「厄を断ち切る」意味を持たせる伝統的なお守りです。



写真1 交通安全割符  
注：試作を経た完成品です。

## 研究の内容・成果

2025年7月からアカエゾマツ原木の状態を調べ、専門家の知見を得ながら「割符」に適した加工方法を検討しました（写真2）。9月のアカエゾマツサミットでは試作品の実演や意見収集を行い、10月には浦幌神社で正式な「魂入れ」の神事を経て完成品として頒布できるようになりました（写真3、4）。木材加工・価格設定まで含め、産学神が連携した具体的な地域資源活用モデルとして形になった点が大きな成果と考えています。



写真2 専門家との意見交換風景

注：2025年7月に土井木材、8月にPine Grace（横田博代表理事）、9月に浦幌神社（背古宗敬宮司）と打合せを実施しました。



写真3 割符の実演風景

注：2025年9月、第11回アカエゾマツサミット（北海道弟子屈町川湯温泉）にて報告を行いました。



写真4 完成品の頒布

注：浦幌神社にてアカエゾマツ交通安全割符が展示されています。

## 今後の展開

今後は、年始の頒布状況や各展示会（エコプロ2025など）への出展で寄せられた意見を踏まえ、割符のデザイン等を改善していきます。また、交通安全だけでなく、防災祈願や学業成就など、用途の拡大も視野に入れています。たとえば、アカエゾマツの香りによるリラクス効果や虫よけ効果などの特性を活かし、木育教材や学習プログラムとして学校や地域イベントに広げることも可能と考えています。さらに、他の関係機関などとも連携し、地域資源を再評価しながら地域資源活用モデルを展開させていきたいです。



写真5 アカエゾマツの巨木  
注：第11回アカエゾマツサミットのイベントにて撮影しました。